

第41回日本生殖免疫学会総会・学術集会 ランチオンセミナー1

Preclampsiaを治したい

- 病態機序の理解から新規治療開発へ -

日時

2026年**10月31日**(土)

11:50~12:50

会場

千葉大学医学系総合研究棟 講義室3

〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻1丁目8番1号

座長

永松 健 先生

国際医療福祉大学 医学部 産科・婦人科学 教授

演者

入山 高行 先生

東京大学医学部 産婦人科学講座 准教授

参加登録方法について

本セミナーのご参加には、学会参加登録が必要となります。参加登録、参加方法につきましては、学会ホームページをご確認ください。<https://www.k-gakkai.jp/jsir41/index.html>

共催

第41回日本生殖免疫学会総会・学術集会 /



富士製薬工業株式会社

ランチョンセミナー1

Preclampsiaを治したい

- 病態機序の理解から新規治療開発へ -

入山 高行 先生

東京大学医学部 産婦人科学講座 准教授



略歴

2002年、東京大学医学部医学科 卒業
2009年、東京大学医学部博士課程 修了
2012年、テキサス大学医学部ヒューストン校 Postdoctoral Fellow
2015年、東京大学医学部附属病院 女性診療科産科 助教
2018年、東京大学医学部附属病院 女性診療科産科 講師
2023年、東京大学医学部 産婦人科学講座 准教授

資格 日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本周産期新生児医学会、
母体・胎児専門医・指導医、日本超音波医学会 超音波専門医・指導医、
日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医 ほか

妊娠高血圧腎症（preeclampsia : PE）の病態解明は、この20年で大きく進展した。なかでも、胎盤由来sFlt-1によるVEGFシグナルの破綻は、母体の全身性血管内皮障害を引き起こす中核的病態として確立されている。一方、レニン・アンジオテンシン系（RAS）の異常活性化も重要な病態機序であり、VEGFシグナルとのクロストークも明らかとされている。こうした病態理解の進歩により、PEに対する病態標的治療の研究開発が進められている。

我々は、VEGFシグナル異常およびRAS異常を標的として、①既存薬の再設計（胎盤を通過しないRAS阻害薬）、②新規治療薬の創製（VEGFR-2選択的活性化薬：VEGF-Eキメラ蛋白）、③原因分子の除去（選択的sFlt-1吸着カラム）という3つのアプローチから治療開発研究を進めている。

本講演では、VEGFシグナルを中心としたPE病態研究の進歩と、それに伴って発展してきたsFlt-1をはじめとするバイオマーカー研究を概説するとともに、これらの知見を基盤として我々が進めてきた病態標的治療への取り組みを紹介する。PE研究は、病態を理解する時代から、病態を可視化し、さらに病態そのものを標的とした治療を目指す時代へと進みつつある。その可能性と今後の展望について考えたい。